

県立高校普通科の魅力化・特色化に向けた検討項目（案）

1 探究的な学びの充実

○ 教員の指導力と指導体制

（第1回部会での意見）

- ・探究活動としてのゼミ活動を行う際の課題は指導体制である。ティーム・ティーチングで指導できると質の向上につながる。
- ・「総合的な探究の時間」では教員がファシリテーターになれずに、生徒任せにしてしまうことが多く、教員研修を充実させることも大切だと感じる。
- ・知識習得型の授業観から抜け出せない教員の意識改革も必要である。

○ 外部（地域・企業・大学等）との連携

（第1回部会での意見）

- ・探究の学びを充実させるために、地域との連携も重要である。
- ・外部と連携した探究活動を行うためには、費用面の課題がある。

○ 大学との接続

（第1回部会での意見）

- ・大学が総合型選抜に力を入れ始めていることを踏まえれば、高校での学び方は今後より一層大切になる。
- ・生徒・保護者が大学進学を前提としていることが多いため、大学との接続が保証されなければ、普通科高校では「探究」に時間を注ぐことが難しい。
- ・生徒のほとんどが大学へ進学する中で、今後、「地域社会学科」の設置や連携型中高一貫教育を導入することが、中学生や保護者に大学進学に不利であるかのように受け止められないか心配している。

○ 専門学科の「課題探究」をモデルとした取組

（第1回部会での意見）

- ・商業科出身の大学生が、高校時代の「課題探究」の授業で身に付けた探究力を生かして充実した学びをしているため、これを普通科にも生かせるとよい。

○ 教育委員会による支援事業

（第1回部会での意見）

- ・「あいちラーニング推進事業」で各学校が「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進しているが、後継事業として、探究ファシリテーターとなるための教員研修や、高校と大学・研究機関等の外部連携等を支援する事業も必要ではないか。

○ その他

2 コース制

○ 成果の検証と方法

（第1回部会での意見）

- ・コース制は学びの特色を出せる一方で、学びの範囲が狭まってしまう印象がある。
- ・コース制は、教育内容に課題があるのか、伝え方が不十分なのか、を十分に検討していかなければならない。
- ・成果検証をする際には、コースを選ばなかった生徒の意見も踏まえる必要がある。

○ 改廃・新設

○ その他

3 普通科新学科

○ コース制との関係

○ 学級数

○ その他

4 中学校・中学生へのPR

（第1回部会での意見）

- ・各高校が特定の教科に特化して強みをPRする方法もあるのではないか。
- ・今年から導入された特色選抜も活用できるとよい。
- ・県教育委員会のホームページの充実や体験入学の複数回実施など、中学生に高校の情報が入ってくるようになればよいと思う。
- ・中学校からは、勉強・部活・学校行事にしっかりと取り組む「安心できる学校」であり続けてほしいと言われている。
- ・高校生が面白がって探究に取り組み、それが後輩の中学生に「ロコミ」で伝わると、中学生に響くのではないか。
- ・普通科高校の魅力化や特色化が生徒募集状況の改善につながる必要があるためである。
- ・中学校と地域の橋渡しをするコーディネーターや広報担当職員を配置できるとよい。
- ・「グローバル探究科」という新学科を苦労して立ち上げて、中学生に理解されるか不安があり、中学生や保護者へのPRを工夫したい。

5 上記以外の検討項目